



# CADEP SFM ニュース

持続的森林管理のための能力開発プロジェクト - ケニア

2017年11月 - No. 2

今回のニュース

森林政策

パイロット事業

REDD+

育種

地域協力

\*各活動の連携については、プロジェクトの展望図をご参照ください。

ケニア国持続的森林管理のための能力開発プロジェクトにおける REDD+準備段階コンポーネントでは、2017年7月5日（水）～6日（木）の2日間で、MRV<sup>1</sup>研修を実施しました。REDD+<sup>2</sup>における MRV 活動は、2つのフェーズに分けられます。第1フェーズは、FRL<sup>3</sup>もしくは FREL<sup>4</sup>と呼ばれる、将来の森林に由来する炭素の吸収及び排出量の推定値の設定とその評価（M に対応）です。第2フェーズは、隔年報告書による森林由来の炭素の吸収/排出量の実績の報告と、その審査までになります（R と V に対応）。今回の研修は、ケニアにおける REDD+の実施に向けて、理解を深め、ケニアの MRV 活動の進捗状況を最新の情報を共有し、さらに将来ケニアにおいて MRV に関わっていく人材を育成する目的で開催しました。

ケニアにおける REDD+に関する知識を持った人材はまだ不足しています。このため今回の研修は REDD+の初心者を対象としてプログラムを準備しました。研修参加者は、ケニア森林公社（KFS）の本局より10名、地方より20名、合計30名としました。なお、本局からは比較的若い職員を、地方からは全国を10区分した各エリアから若手1名と中堅1名の2名ずつを選出してもらいました。実際の研修参加者は、当日キャンセル等もあり、24名で実施しました。

研修プログラムは、1日目に REDD+概論やケニアの REDD+進捗状況、また MRV の M としての NFMS<sup>5</sup>の機能を解説しました。2日目には、より具体的な測定方法に踏み込み、ケニアで実施もしくは計画しているリモートセンシング等を使った森林面積変化を測定す

<sup>1</sup> Measurement, Reporting Verification : 測定、報告、検証

<sup>2</sup> Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries; 途上国における森林減少・森林劣化からの排出の削減、および森林保全、持続可能な森林経営、森林炭素蓄積の強化の役割

<sup>3</sup> Forest Reference Level : 森林参照レベル

<sup>4</sup> Forest Reference Emission Level : 森林参照排出レベル

<sup>5</sup> National Forest Monitoring System : 国家森林モニタリングシステム

る方法や、森林資源調査によってヘクタールあたりの森林資源量を測定する方法、さらに森林資源調査の結果からバイオマス量を計算し、最終的に炭素量に変換する方法等について講義を行いました。このように研修では内容が多岐にわたり、朝から夕方まで‘のみっちりとした講義となりましたが、研修生からは活発な質問があり、内容の濃い 2 日間となりました。

研修の最後に、今回の研修の成果を確認し、次回の MRV 研修に向けた改善を図るため、研修生の理解度を測る小テストと、アンケートによる要望調査を実施しました。小テストの結果は平均約 65.2 点でした。小テストはやや難しめの内容であったため、結果は妥当と判断できましたが、一方で、次回の研修ではもっと点数が上がるよう、研修内容に改善を加えていく必要があります。また、アンケートからは、判りやすく、とても効果的な研修であったという意見がある一方、内容が多く複雑であるため、もっと長く研修期間をとってほしいという意見や、せっかく学んでも業務と直接関連しないと忘れてしまうため、繰り返し研修を行って欲しい等の要望がありました。

MRV 研修はプロジェクト中、年に 1 回開催します。今回の反省から、次回はもう少し研修期間を延ばし余裕のあるプログラムにすること、また、例えば講義形式だけでなく、グループワークも含め研修生が主体となるようなプログラムを組むことで、より研修生の理解が定着するような研修を計画する予定です。また、今年度は日本人専門家が半分以上の講義を担当しましたが、今後は現在一緒にプロジェクトを実施しているケニア側のカウンターパートに講義を担当してもらい、ケニア国の中で人材育成ができる体制の構築も目指していきます。

プロジェクト終了後の活動の持続性を担保するには、プロジェクト活動を理解し、継続していくことのできる人材を育てることが必須です。現在ケニア側とプロジェクトが一緒に取り組んでいる活動を、将来はケニア単独で実施していくことができるよう、今後もケニア側の主体性を尊重しながら、人材育成に力をいれた活動を進めていく予定です。



研修の様子



研修生との集合写真